

第1学年 算数科学習指導案

1 単元名 ひきざんマンにちょうせんだ! (「ひきざん」)

2 単元について

(1) この単元で培いたい力

本単元では、(十何) - (1位数)で繰り下がりのあるひき算の計算の仕方を理解できるようにする。1年生はこれまでに1位数 - 1位数や10より大きい数からの減法(13 - 3)、3口の加法・減法との混合(12 - 2 + 5)を学習してきた。これらの延長にある繰り下がりのある減法は、減法計算の中の基礎として重要な位置を占めている。2年生の筆算へと発展していく基礎として、具体物を生かして減法の意味や仕組みなどについての理解を確実にしていくことが重要であると考え。その際、既習事項を手がかりにして、筋道を立てて考えることも大切にしたい。

本単元の減法の学習では、減加法と減々法が取り上げられている。どちらを主にして指導するかは、数の大きさに従い柔軟に対応できるようにすることを原則とするが、児童の実態にあわせて指導することも大切にしていきたい。

(2) この単元で培いたい力についての児童の実態

(3) 課題解決能力と共感性を高める支援

ア 課題や見通しを明確にもつために

本単元では、既習事項と比較して10のたばをどのようにくずすかを考えさせる際、ヒントコーナーでの具体物操作やヒントカードの工夫・掲示などにより、学習意欲を高め、解法への見通しをもたせたい。

このような支援を通して、今までの計算方法と違った方法(減加法や減々法)を見つけ、自力解決していかうとする児童を育てたい。そして、毎時間の最後には、ひきざんマンに手紙を書く活動を通して、自分の学びの振り返りが意欲的にできるようにする。

イ 学び合い、共感性を高める場の設定

ペアや全体の場で友達と交流する活動を通して、友達の考えや方法のよさに気付いたり、認め合ったりして自分の中に取り入れさせたい。また、単元を通して自分たちで考えた計算の仕方に「ひくたすほう」「ひくひくほう」という共通の名前をつけ、財産を共有するような感覚で親しみ、繰り返し使えるようにする。

3 単元の目標

- ・繰り下がりのある計算に興味をもち、「10といくつ」という数の仕組みのよさに気付き、進んで計算しようとする。
- ・減加法や減々法の考え方ができる。
- ・(十何) - (1位数)で、繰り下がりのある計算ができる。また、適用題を解くことができる。
- ・繰り下がりのある計算の仕方について理解する。